

リレートーク【1】

ポリテクカレッジ秋田 漆谷 嘉則

Let's 草野球！

ポリテクセンター滋賀の大岡先生から紹介を受けました漆谷と申します。大岡先生は私が滋賀にいた間の4年間、公私ともにお世話になった先輩で、新しい店を見つけては、よく飲み連れて行ってもらったものです。そんな先輩からの依頼ですので、快く引き受けさせていただきました。

私が秋田に来たのは今から約2年前の2003年4月。同僚の方から「野球をやりませんか」とのお誘いを受け、始めたのがきっかけでした。チームは、ポリテクカレッジ秋田の職員のみで構成される、いわゆる職場チームであり「素人ばかりだよ」とのことでしたので、足手まといにならないか不安だった私も喜んで参加させていただきました。

私と野球の出会いが小学生4年生の頃で、町内会で構成される野球チームに3年間所属していました。実力が平凡だったのもさることながら、6年次には肘に痛みが走る、いわゆる「野球肘」となり、私の選手生命はわずか12歳で絶たれました。(ちょっとおかげですが)

そんなことがあったせいか、野球をやりたいという気持ちは胸の中に強く残っていました。チームの活動内容は試合が年間で3～5試合くらい、練習も不定期でサッカーやトスバッティングをする程度です。公式な大会に出ているわけでもなく、活動の頻度は低いですが、その一つ一つが私にとって忘れかけていた楽しい時間なのです。

試合においては、基本的に勝ち負けは気にせず「楽しむ」ことを第一にプレーしていますが、中には勝ちたいと思う試合もあります。それはポリテクセンター秋田との交流試合です。私が来るまで、カレッジの3連勝だったそうなのですが、私が加入した後の2003年、2004年と2連敗を喫してしまいました。

そして2004年秋、皆で相談し、思い切ってユニフォ



右から2番目が筆者

ームを買うことにしました。果たして今年はカレッジがポリテクに対してリベンジできるのでしょうか。はたまた振り返りにあってしまうのでしょうか。

草野球の魅力は最低限のルールさえ知っていれば、だれもが参加できるということです。そして参加すれば、3つの良いことがあります。

- ① 運動不足が解消できる
- ② 仲間と酒を飲む口実ができる
- ③ 勝つことの喜びを味わえる

特に試合後の祝勝会（残念会？）にてビール片手に語り合うことは、試合と同じくらい楽しみにしていることです。どうですか？ 草野球をやりたくなってきてほしい？

さて、今回はポリテクカレッジ京都の後藤先生です。彼とは学生時代からの付き合いで、共に学び、共に遊んだ友人です。学内のソフトボール大会と一緒に参加し、準優勝したことを思い出します。

それでは、よろしくお祈いします。